

(様式第4号)

第4回真田地域協議会 会議概要

1	審議会名	真田地域協議会
2	日 時	平成22年7月21日(水) 午後7時00分から午後9時00分まで
3	会 場	真田地域自治センター3階 301会議室
4	出席者	大久保幸子委員、大久保幸子委員、大久保治男委員、大日方孝委員、北沢孝子委員 北島一博委員、坂口久美子委員、佐藤和雄委員、清水茂委員、関貞徳委員、 関奈津子委員、田中榮江委員、田中新平委員、堀内厚子委員、柳橋邦人委員、 若林ゆき子委員 【欠席委員】4名
5	市側出席者	笠原センター長、センター全課長、東井交通政策課長、田中地域交通政策係長 滝沢地域政策係長、宮島主査、上田バス(株)(白井専務 舟見部長)
6	公開・非公開等の別	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7	傍聴者 0人	記者 0人
8	会議概要作成年月日	平成22年8月2日

協 議 事 項 等

- 1 開 会 (関副会長)
- 2 会長あいさつ (佐藤会長)
- 3 センター長あいさつ (笠原センター長)
- 4 会議事項 (進行: 佐藤会長)
 - (1) 路線バスの見直しについて
(会長) 真田地域バス運行改善計画は、昨年8月の協議会に提案があり分科会で検討した経過がある。
(建設課長) ~ 傍陽線バス迂回ルート(案)の説明 資料図面 ~
傍陽線迂回ルートについては、上田市地域公共交通会議(平成22年2月23日)の承認を受け、H22年度の国の補助金により実証運行を実施するもの。実施時期は10月1日から。
(上田交通(株)) 今回の市からの提案を受け、本原地区のバス路線のない地帯が解消できるのであれば、若干道幅の狭い部分もありますが、安全確保を図りながら運行したい。この迂回により距離で1.8km、運行時間は3分の増。運賃は本原バス停の金額で運行する予定。
【質疑・応答】
(委員) 時刻表を真田地域に全戸配布すると聞いた。迂回ルートに近い赤坂地域にも配布したらどうか。
(建設課長) 上田バス等と今後も協議を行い、確定したところで時刻表の真田地域の全戸配布や赤坂地区の配布について検討する。
(委員) 将来的にバス停を増設する考えはあるのか。それを提案する主体は市になるのか。
(上田バス(株)) 安全が確保できる場所であれば検討でき、提案は市となる。また赤坂~上田駅が520円、上原・中原~上田駅は420円。赤坂の皆さんの利用も考えられる。
(委員) 本原小学校前は、道幅が狭くて心配。
(建設課長) 狭いと認識しているので、注意した運行が必要と考えている。

(東井交通政策課長) ~ 菅平高原線の運行見直しについて 資料 ~
菅平高原線は輸送人員の減少で赤字が増大していることから、路線運行を見直したいとの申し入れが上田バス(株)からあった。市で策定した公共交通活性化プランに基づいて路線バスの利便性向上に努めてきたが、今回は会社の経営改善の一環として、オンシーズン以外の昼間の時間帯の乗車が少ないころからこれを減便、またサニアパークまで行っている4本についてもこの間の乗車が皆無なことから、この

間を廃止するというもの。

(上田バス棟) 平成 21 年度から輸送人員が顕著に落ち込み、厳しい状況であることを市に伝えてきた。

弊社としては、このまま何もしないわけにいかず、改善を行わざるを得ない。路線維持の前に会社が無くなっては皆さんに大変ご迷惑をかけることになる。地域の皆さんにはご理解いただきたい。

(建設課長) ~ 長・傍陽・本原・菅平の各地区で行った説明会から主な意見を報告 ~

- ・電車との接続等、利便性がよくないのでダイヤ改正が必要
- ・運賃が高い。高校生は自転車通や親が送り迎えをしている。
- ・乗る人に補助を出したほうが良い。
- ・市の取組みが足りない。 等々

【質疑・応答等】

(委員) サニアパークまで間の廃止については、同会場で大会が開催されると駐車場が足りず、問題になっている。もっと路線バスを利用してもらえば混雑も減るのではないか。市ではバス利用を推進したのか疑問が残る。

また、市はバス事業者に補助するよりもバス利用者に補助を出して利用者の負担を軽減すれば利用者が増加するのではないか。

(交通政策係長) 地元からサニアパークまで路線を延長してほしいという要望によって運行された経過がある。全便がサニアパークまで行っているのではなく、また季節的な運行ということもあり、バス利用への変換が行われなかった。モータリゼーションの進展もある。

バス路線にもいろいろな補助の形式がある。真田止まりの真田線は、国と県から一部補助がある。傍陽線は自治センター入口から先について市が赤字分を補填しているなど様々。菅平高原線については、国県の補助対象にならなかったため、利用者が減って現状では上田バスに大きな負担となっている。

利用者の負担軽減についてもひとつの利用促進の方策であり検討していく必要があるが、バス事業者の運営自体が厳しい中で、その補助部分を削って利用者に振り替えるのは現実的に難しい。利用者への負担を少なくしても、その分バスへの転換が確実に行われるかという点と厳しい。

(委員) 見直した時間帯の利用の調査をしたのか。長い時間が無運行になる時間帯があるのでダイヤ調整が必要になるのではないか。

(上田バス棟) 調査によれば、オフシーズンの昼間の利用者数は皆無。サニアパークまでの間の利用者もほとんどない。朝夕の運行は必ず利用があるので、昼間の時間帯で減便をお願いせざるを得ない。乗り継ぎを優先すると増便という話になってしまう。

(委員) 昼間、医者に行くお年寄りがいる。デマンド交通というものもあるが。

(会長) 公共交通の問題には様々な意見が皆さんからあると思う。第 2 分科会ではこの件をまさに協議している。そこで大いに議論していただき、方向性をだしてもらいたいと考えますがいかがでしょうか。

(委員) 了承

(2)分科会別協議について

(会長) 全体会終了後、各分科会に分かれて、分科会のテーマについて協議願います。大変幅広い中でのテーマ設定になりますが、よろしくご協議願います。

(3)その他

市からの報告事項

- ・情報基盤整備事業の概要（地域振興課長）
- ・地域づくりコーディネーター養成講座「キックオフフォーラム」開催のお知らせ（事務局）
- ・平成 22年度わがまち魅力アップ応援事業 再提出 2 事業を採択（事務局）

5 その他

次回の開催日時は、8月19日（木） 午後7時から

6 閉 会（関副会長）